

令和7年度第2回

札幌市アイヌ施策推進委員会

議 事 録

日 時：2026年3月6日（金）午後3時開会

場 所：札幌市役所 12階 第3、4会議室

## 1 開会

### ○尾崎委員長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回札幌市アイヌ施策推進委員会を開催します。

はじめに事務局から事務連絡などについて、お願いします。

### ○事務局（熊谷アイヌ施策課長）

アイヌ施策課長の熊谷でございます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。はじめに、委員会の成立について確認いたします。

札幌市アイヌ施策推進委員会規則第4条第3項におきまして、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないものとされておりますが、本日は委員10名のうち9名の委員にご出席いただいております。石川委員はご欠席ですが、会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

次に配付資料の確認をさせていただきます。

お手元にはまず「次第」、それから資料1といたしまして、「令和8年度札幌市アイヌ施策について」、続きまして資料2といたしまして、「第2次札幌市アイヌ施策実施プラン（アイヌ施策推進地域計画）の変更について」、この3つとなっております。

資料に不足はございませんでしょうか？

-（確認）-

ありがとうございます。

この委員会は、「本市におけるアイヌ施策の実施状況、アイヌ施策の見直し及び新たなアイヌ施策について審議すること」を目的として設置されているものでございまして、本日はその目的のうち、新たな施策及び施策の実施状況についてご意見をいただきたいと考えております。

皆様から忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

### ○尾崎委員長

ありがとうございます。それでは次第に従い議事に入りたいと思います。

次第2の議題「令和8年度札幌市アイヌ施策について」です。

○事務局（坪山事業調整担当係長）

事業調整担当係長の坪山でございます。資料1「令和8年度札幌市アイヌ施策について」をご覧ください。

令和8年度予算に基づき実施する予定の事業をこちらの資料の方にまとめてございます。

なお、本日は、前回の委員会で委員の皆様から頂戴しました意見を来年度の予算や事業内容にどのように反映させたかという点も含めてご説明をさせていただきたいと思っております。

早速ではございますが、2ページを御覧ください。

こちらには、アイヌ施策推進費の予算総額を記載しております。表の一番上、令和8年度予算については、現在、令和8年第1回定例市議会に上程・審議中の内容になりますが、2億6,261万4千円となっており、令和7年度当初予算と比較して約2億8,000万円の減となっております。

これにつきましては、欄外の米印に記載のとおり、令和7年度予算において、共同利用館後継施設整備に係る土地の所管換え費用として約2億4,900万円を計上していましたが、この手続きが完了したことに伴うものでございます。

また、令和8年度予算のうち、国のアイヌ政策推進交付金対象の事業費は1億393万2千円、これに対する交付金の額は8,314万5千円を予定しております。なお、昨今の人件費や物価の高騰に加え、本市の財政状況も厳しさを増しており、全庁的に一律の予算削減が行われるなど、緊縮財政下での予算編成となっております。

そのため、全体的な予算規模は縮小傾向にございますが、そのような状況下にあっても、限られた財源の中で選択と集中を行い、特にアイヌ文化の保存・継承・振興等に資する事業や、前回いただいたご意見を反映した施策を優先的に実施できるよう配慮しております。

次に3ページをご覧ください。以降のページには、札幌市アイヌ施策推進計画の5つの施策目標ごとに、実施予定の事業をまとめております。

はじめに、施策目標1、「アイヌ文化の保存・継承・振興」、推進施策の1つ目、「アイヌ文化の継承と人材育成」についてです。来年度予算として618万9千円を計上しております。

新たな取り組みとしては、②の「アイヌ文化体験講座（担い手育成）の実施」につきまして、前回、早坂委員、結城委員、吉村委員からご指摘のあった「担い手への支援のあり方」を踏まえまして、日中に仕事を持っている方でも参加しやすいような、中長期

的な視点に立った担い手育成事業の実現に向け、モデル事業の試行実施を行うものです。

次に、4ページをご覧ください。推進施策の2つ目、「アイヌ民族の伝統的な生活空間（イオル）の再生」についてです。来年度予算として243万8千円を計上しております。

①の「イオル再生事業」は、これまで、自然素材の育成と料理体験講座などの体験交流事業の大きく2つを実施してまいりましたが、令和8年度からは、体験交流事業を、次ページの「市民向けのアイヌ文化体験講座」に統合して実施することといたします。よって、こちらでは、自然素材の育成や管理を中心とした事業を行ってまいります。

次に、5ページをご覧ください。施策目標2「アイヌ民族に関する理解の促進」、推進施策の1つ目「アイヌ民族に関する啓発活動の推進」についてです。来年度予算として2,733万2千円を計上しております。

①の「アイヌ文化体験講座（市民向け）の実施」についてですが、先ほどご説明したとおり、イオル再生事業で採取された自然素材を活用したアイヌ料理講座などを、こちらの事業に統合しています。これまでは、アイヌ文化交流センターを中心に講座を実施しておりましたが、前回、白川部委員、本田委員からご指摘のあった「小学校卒業以降も継続的に学べる機会の拡充」を踏まえまして、区民センター等、市内各所での開催回数を増やすことで、色々な世代の市民が、より気軽に参加しやすい形での実施を予定しております。なお、吉村委員からいただいた「毎年同じ参加者が含まれることから、抽選方法の見直しが必要」というご指摘につきましても、初めて参加される方がより多くご参加いただけるよう、抽選ルールの改善等を進めてまいります。

そのほかの事業につきましても、前年度に引き続き実施してまいります。

次に、6ページをご覧ください。推進施策の2つ目「アイヌ民族の歴史の尊重と教育施策の充実」です。来年度予算として2,829万円を計上しております。

①及び②の小中高校生団体体験プログラムについては、引き続きアイヌ文化交流センターにおいて、若しくは各学校において、伝統文化の体験などを実施いたします。来年度につきましても、各学校が来館するための送迎バスを用意し、学習機会の確保に努めてまいります。

次に、7ページ、施策目標3「体験・交流の促進」のうち、推進施策の1つ目「札幌市アイヌ文化交流センターの魅力創出」についてです。来年度予算として9,352万6千円を計上しております。

③のシステム・機器のリニューアル及び④の庭園リニューアルについてですが、来館者の利便性向上と施設の長寿命化を図るため、令和7年度に引き続き、老朽化した機器の更新や、屋外庭園の園路・階段等の改修工事を進めてまいります。

特に音響機器につきましては、前回、早坂委員より具体的な不具合のご指摘をいただきましたが、その点については、令和7年度の機器更新により解消される見込みです。引き続き老朽化した設備の適時適切な更新により、アイヌ伝統舞踊や楽器の魅力を引き出せる環境を整えてまいります。

次に、8ページ、推進施策の2つ目「アイヌ文化の体験・交流の機会創出」についてです。来年度予算として320万円を計上しております。

アイヌ文化交流センターイベントについては、令和7年度から冬季も含めた通年開催としており、来年度につきましても、アイヌ料理の試食を毎回実施するなど、魅力あるイベントを実施してまいります。

次に、9ページ、施策目標4「産業等の振興」、推進施策の1つ目、「アイヌ文化のブランド化の推進」です。来年度予算として2,100万円を計上しております。

①の工芸品等の常設販売店の運営については、札幌市営地下鉄大通駅コンコース横に設置したアイヌ工芸品等常設販売店「ポロセ」において、ワークショップ等のイベントを継続開催し、店舗への誘客と工芸品の魅力発信を強化してまいりますとともに、前回早坂委員からいただいた、「制作過程を見せることで、工芸品の価値や価格への理解が深まる」というご意見を踏まえ、作り手の技術や思いが伝わるような内容の充実を図ってまいります。

次に、10ページ、推進施策の2つ目「アイヌ文化に関する観光プロモーションの推進」についてです。来年度予算として845万1千円を計上しております。

引き続き、毎年好評をいただいているウポポイとアイヌ文化交流センターを巡るバスツアーを実施し、アイヌ文化の発信と理解促進を図ります。来年度は、市民がより参加しやすくするための改善といたしまして、一部催行について、発着地を都心部ではなく、区民センター等の各地域とすることで、これまで同ツアーにアクセスしづらかった市民の誘引に努めてまいります。

次に、11ページ、施策目標5「生活関連施策の推進」、推進施策の1つ目、「生活環境等の整備」についてです。来年度予算として5,554万円を計上しております。冒頭でもご説明しましたが、令和7年度予算には、共同利用館後継施設の用地取得費約2億4,900万円が含まれております。

④の「札幌市共同利用館後継施設整備事業」につきましては、令和10年度の供用開始に向け、令和8年度に実施設計を終える予定となっており、引き続き、着実に整備を進めてまいります。

最後に、12ページには、その他の予算といたしまして、事務費や共同利用館運営費等の施策目標に分類されない予算について記載しております。

令和8年度アイヌ施策については、以上となります。続きまして、資料2、「第2次

札幌市アイヌ施策実施プラン（アイヌ施策推進地域計画）の変更について」ご説明いたします。

こちらの資料は、令和6年度から10年度までを期間とする現在のアイヌ施策推進地域計画の数値目標部分を抜粋したもので、右側には現在の内容を、左側には変更したい内容に下線をつけて記載しております。

アイヌ施策推進地域計画の一部の事業については数値目標を定めており、その達成状況について、毎年度、1回目のアイヌ施策推進委員会において事務局からご報告し、委員のみなさまからご意見を頂戴しているところです。

しかしながら、先ほど、令和8年度に実施予定の事業についてご説明差し上げましたとおり、令和8年度は緊縮財政下での予算編成となり、地域計画策定時と状況が大きく変わったことから、数値目標を変更したいと考えております。

具体的には、1枚目左側「体験交流事業参加者数」を年間80人へ、「講座（市民）参加者数」と「アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座参加者数」を全体で年間250人と変更いたします。

予算規模の減少に加え、昨今の人件費や材料費の高騰により、講座1回あたりの開催単価が大きく上昇しておりますが、開催手法の見直しなどにより、なんとか令和7年度比1割減の合計330人を確保したいと考えております。

なお、アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座につきましては、当初想定していた事業内容を含め、関係のみなさまと引き続き調整を行っておりますため、今後は「講座参加者数」に統合してまいります。

事務局からのご説明は以上となります。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。ただいま事務局から、来年度「令和8年度札幌市アイヌ施策について」、「第2次札幌市アイヌ施策実施プランの変更について」を説明していただきました。それでは委員の皆様からご質問やご意見をお願いいたします。

#### ○結城委員

まず3ページについて、高齢者（エカシ・フチ）の歴史体験記録について、昨年度から始まって、今年度2人増えたと思います。お話を聞きに行ける人が他にいなかったのので、私も高齢者のお話を聞きに行きました。アイヌ文化との関わりは、この時代を超えるのに、いろいろな差別体験をするということで、お話を聞くだけで、ものすごく高齢者の方が話し合ってたよかったですと、だんだん孤独になっていくようなこういう高齢社会の中で、やっぱり自分たちが通ってきた歴史を喋るべきだと思うし、是非とも、たくさんの人にこの事業を利用してほしいなど、感想で申し訳ないんですがそのように感じました。

それと、5ページ、6ページに関することなのですが、チ・カ・ホにおける、新聞でも話題に上がりました、僕たちからすると、ヘイトスピーチと言っていい、アイヌを否定するような団体のパネル展に関してなんですけど、また行おうというような噂も流れています。昨日、アイヌ民族文化財団の理事会がありまして、アイヌのヘイトスピーチに関する話題がでて、いろんな理事からお話をいただき、やっぱり歴史的なしっかりとしたことが伝わってないことが原因なんじゃないかという意見がありました。

北海道アイヌ協会、いわゆる本部と言われるところで、先日80周年を迎えてですね、そのときに東京の国立科学博物館から篠田先生っていう方がいらっしゃって、DNA的にアイヌは縄文の後継者に間違いないというような意見があり、そこに多くのアイヌたちもすごくインパクトを感じていて、よかったっていう意見も聞かれています。

ずっと続くんですね。皆さんが努力してくださっても、本当にSNSなどでもまだ消えなくて、若手になればなるほど、そのSNSで自分たちのルーツに関するヘイトスピーチを受け止めなければならない状況もまだまだ続いております。

今回のアイヌ施策推進法の改正で、その部分が抜け落ちたことはすごく心痛いことなんですけど、ぜひともですねやっぱりそのことに対する対応、しっかりとした歴史的認識を皆さんに広げるような方法をちょっと取ってほしいなというふうに考えます。

ずっとこの問題、僕らの先輩方からもずっと差別とかそういうものを、そして今アイヌの状況が皆さんの協力によって良くなってきたとしてもですね、高齢者（エカシ・フチ）の聞き取りをしてもですね、やっぱり過去において、差別を受けた傷というのが、未だに残ってらっしゃる方もいます。ですので、やっぱりしっかりとした歴史的見解を、どこかで示してくださるような方策をとってほしいなと思います。

私はそれだけです。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。今、結城委員から二つの意見が出たと思います。一つはエカシ・フチの方々の歴史体験の記録をより積極的に進めるべきであるということ、もう一つは、ヘイトスピーチ的な活動をする団体が依然としてあることをふまえて、より一層、アイヌの歴史を広く知らしめていくべきであるということです。これについて、もし委員の方々で関係するご発言あればお願いいたします。

#### ○本田委員

チ・カ・ホのパネル展のことなんですけど、たまたま前回のときに私も見に行ったところ、期間がすごく短く前日で終わっていて、そしたら見逃してしまいました。やむなく、その後たまたまポロセの方に顔を出したところ、私くらいの年配の方が、お二人見えて、「あのパネル展どこでやってるんですか？」って聞かれました。「あっちの方だったんですけども、もう昨日で終わったみたいです。」と答えたら、すごい残念

がって、「二人で札幌市に文句を言いに来たんだ。」っておっしゃったんです。「何でもそういうようなことを阻止できないんだらう。札幌市は一体何考えているんだ。二人ともすごく頭にきたので、札幌市に文句を言いに来たんだけど、これはどこに言ったらいいいんだらう。」って聞かれました。私は「札幌市のアイヌ施策を担当されているのはアイヌ施策課なんですけれども、この展示に直接関わっているとは思えず。施設管理はまた別の組織がおこなっているはずですから、さあどういたしましょうか。」みたいな話をして、おかげ様で、いろんなお話を伺うことができました。お二人とも立派な方々で、私もいろいろアイヌ施策のことを話しているうちに、うちの大学のシンポジウムにも来られ、その後ウレシパフェスタにも来てくださって、おかげさまで、すごくいい関係を築けました。ただ、お話を聞いてわかったのは、これまでアイヌのことについて関わってこられた方々ではないんです。ごく普通の市民の方で、その方々が札幌市に対して本当に怒りを覚えて文句を言いに来ておっしゃったくらい、やっぱり大きな影響を与えているのです。もはや札幌市のアイヌ施策全体を問われる問題にもなっているかと思います。是非検討していただきたいというふうに思います。

以上です。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。ほかにどなたかいらっしゃいますか。

#### ○西尾委員

西尾です、よろしく申し上げます。今の、お二方のお話を、私もすごく感じているところでして、実は、私自身はまだ北海道にきてたった2年しかたっていないんですけれども、北海道は主人のふるさとだったので、移住したわけなんです、その前に東京にいたときにたくさんの北海道の歴史とか、アイヌの文化や歴史とかを本で学んだんですね。

ただ、意外と、こっちに来て知り合った人々とそういう話ができないというか、全く歴史についても、正しい理解というものに興味のない方が多いことに驚きまして。実際に、本当に正しく、北海道の歴史とアイヌの文化を知れば、そういうヘイトスピーチに繋がるっていうことが、なんか私の中では繋がらないというか、リスペクトを持つことにしか繋がらなかった体験があるので、もう少し歴史に対する正しい認識みたいなものを定める施策というのが、具体的な形で、ここに示されていけばいいなというふうに、今日来て思いました。

子どもたちとか札幌市の管理職の方とか、新採用職員の方への研修があられるようなんですけれども、ほとんどの方は受けられないですね。子どもか市役所の方っていうふうになってしまうと、一般の勤めている人っていうのは、そういう正しい文化をどこで学ばばいいのかというのが、よくわからないというのが率直な感想です。良い文化ばかりを紹介するにとどまらず、あの辛かった歴史とかだったりとか認識っていうのを広め

てもらうことで、みんな正しい理解に繋がるんじゃないかなと思います。ちょっと偉そうな言い方になってしまって恐縮なんですけれども、感想と期待も含めてお伝えしました。

以上です。

○尾崎委員長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

○早坂委員

アイヌ文化保存・継承・振興活動等の補助という形で書かれているんですが、実際、私の孫たちもこういうところで、学習支援等の活動とかにも参加したりとかしているんですが、実際にアイヌ文化保存って書いてあるんですが、実際に子どもたちがそこまでいろんな保存的な活動をしているかという、そういうのはあまりないのかなっていうのがちょっとありまして。

実際に、本田先生がいらっしゃるのであれなんです、ウレシパ奨学生の皆さん、いろんな勉強を学びながら来ている。その中で、子どもたちに知ってもらいたいことを講習するとか、いろんな先生たちが来て、子どもたちにいろんな指導をするとか、地域的にはこんな違うこともあるんだよなんていうことも、やっぱり今後、やっていかなければいけないことなのかなっていうのは、ずっと思っていることなので、こういうことを進めていける状況になっていただければな、というのは思っています。

6ページの施策目標2のアイヌ語地名看板の設置について、進んでるのかっていうのがちょっとあんまり見えてきてはいなかったの、ちょっと確認してみたいなと思いました。

それとあと、小中高校生体験プログラムの実施についてなんです、2年ぐらい前までは、調整員という形で、プログラムを調整する方がいらっしゃったんですが、この2年間ちょっと調整員というのが出ていないっていうのもあるので、ぜひすぐにでも復活させていただける状況を作っていただければなっていうのは思うところがあります。

あと、他全然違うことになるかもしれないんですが、ウポポイは今休園になってるんですね。それで2、3週間間に、みんなその職員たちもたくさん体験をしてくとか、いろんなところに出張ももちろんあるんですが、そういう体験をしたりしているんです。私達、サッポロピリカコタンとかにも、やはり数名の職員がいて、そこでそういう人たちも、いろいろもちろん学んで欲しい部分はあるんです。まして、私達一緒に立って文化を発信している人たちの言葉も、もちろんその職員の人たちにも聞いていただきたい。

昨年度だったんですが、ちょっとしたイベントをやりますよって言ったときにテーブ

ルを1つを出すって言ったら、「部屋の外に出されたら困りますよ。」って、前日に言われてもどうするのっていう状況になったりとか、いろんなことがちょっと本当に小さいことがあったりとかして、なかなか結構大変なことがあったりとかするんですね。

私達の文化を発信するために、サッポロピリカコタンを使わせていただいているんですが、せっかくイベントするよと言ったときに、「いや、テーブル表に出されたら困りますよ」って言われる。もちろん、汚れたり壊れたりいろんなことは物っていうのはそういうものかと思えます。そういう時も、やはり札幌市の建物かもしれないし、物もそうかもしれませんが、あそこは札幌アイヌ文化交流センター、アイヌのためにも、もちろん建てられたものだと思うので、私達が何かイベントをしたり何かをこういうふうに使っていききたいというときに、「いや困ります。使われては困ります。」っていうのは、今後やめていただきたいというのは、本当に思うところです。

そういうことも踏まえた上で、1週間までもいかないです。普段、仕事で行ってちょっとお話するぐらいしか、やっぱり職員の方たちとの交流はないので、2、3日を休館日にしてしまって、その間にアイヌの人たちの言葉を聞いたりとか、いろんなこういう交流するような形をとって、やはりじっくりとしっかりと話ができるっていう方向性も持っていたいただければなと思います。

そうすると、もっとサッポロピリカコタンっていうのを、とても使いやすくなるし、もっとアイヌの人たちが率先して使える場所になっていくことが、やっぱりあそこを盛り上げていくものでもあると思うので、ぜひその辺をちょっと考えていただければなと思います。

だいたいお願いですが、ぜひよろしくお願ひします。以上です。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。いろいろなお話が進んでいてたくさん出ていますので、ちょっと1回ここでまとめさせていただきます。

まず、本田委員から札幌市がなぜああいう展示を許したのか、止められなかったのかという問題提起がなされ、それとの関連で西尾委員から、多くの市民がそもそもそういう問題が起きていることに興味がないということ、子どもたちや札幌市の管理職だけではなくて、一般市民に対しても負の文化、差別の経験などについて広く知らしめる、そういう事業があってもいいのではないかという問題提起がされました。

早坂委員からは、この資料1のいろいろな事業、アイヌ文化の保存事業の一層の積極化、看板の設置事業、小中高生体験プログラムの調整員、サッポロピリカコタンといった施設の利用の柔軟化など、多様な要望が出されたと思います。大きく分けて前半と後半の話があると思いますが、ここでアイヌ施策課の方からございましたらよろしくお願ひします。

○事務局（アイヌ施策課長）

多岐にわたるお話ありがとうございました。まず、私の方からいくつかお話をさせていただきます。

今、尾崎委員長にまとめていただいた通り、まずパネル展について私の方から説明させていただきます。結城委員から、こうしたことが起こるのは、アイヌ民族の歴史的なことがしっかり伝わっていないのではないかと、行政としてもしっかり広げるような方法をとってほしいという話がありまして、その関連で、本田委員からは、札幌市におけるアイヌ施策全体が問われる問題なのではないかですとか、この問題の所管というのはどこか。アイヌ施策課なのか、それとも施設を所管する課なのかという話もございました。そして、西尾委員からはまさに正しい歴史をどこで学べばいいのかという話もございましたので、それを総括して私の方でお話をさせていただきます。

まず、歴史について、しっかり伝わっていないということに関しては、我々の反省材料です。関係の方々と、何度か意見交換もさせていただいていますので、エカシ・フチ関係の事業も含め、引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

例えば、正しい歴史・文化を、一般の方々がどこで学べばいいのかという話もございますけれども、現状、体験講座の話在先ほどさせていただきましたが、メニューとして、例えば、札幌アイヌ協会の会長職の方に、お話にあったように、文化の面だけではなくて、歴史的な話も一般市民のご講義いただくようなメニューを設けていたりもします。

いずれにせよ、そうした方向性について行政としても、もっと対応していくというような事業を進めるという上で、我々の認識は同じでございますので、それについてはしっかりと進めていきたいと思います。

加えまして、先ほど、本田委員からありました組織の話で言いますと、この問題に関しては、もちろんアイヌ施策課の問題でもあり、施設の所管課の問題でもあり、複数の部局にまたがる、大きなかつ重要な問題だと考えております。これについては、部局横断的に検討を進めているところであり、市としての方向性、結論を出してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

他のいくつかのお話なんですけれども、早坂委員からですね、適切な場を設けて意見交換という話がございますので、ピリカコタンを休館するかどうかというのは、要検討の部分もありますけれども、アイヌ施策課としても、意見交換の機会というのを設けてまいりたいというふうに考えております。

関係の方々に、ご意見を聞いて施策を進めるというのは、まさに私も大事だというふうに考えております。例えば、体験プログラムに関しては、年間数回意見交換の場を設けています。そして、ポロセに関しても、その販売に関する出品者との意見交換会を年

に数回という形で開催しておりまして、その分野、分野に応じて、今も意見を聞きながら事業を進めさせていただいているところではあります。今後についても、特定の議題に限らないような意見交換の機会を設けるというのも、我々としても検討させていただきたいと思います。

地名看板の話については、担当の方からお話させていただきます。

○事務局（事業調整担当係長）

事業調整担当の坪山です。アイヌ語地名看板についてご質問をいただきました。

こちらにつきましては、今アイヌ施策課だけではなく、他の部署においても地名に焦点を当てました別な事業を計画をしようとしているというお話がございます。そちらの方と合わせて事業を進めてまいりたいと思いますので、進捗に合わせまして、皆様には随時、ご相談をさせていただきたいと思っていますところでございます。

以上です。

○尾崎委員長

ありがとうございます。もし委員の方々から何かございましたらお願いします。

○結城委員

細かいことですが、昨日も財団の方で、ウポポイの来客数ということで、いろんな課題を皆で話し合ってきました。リピーター率が少ないんじゃないかっていうことが、課題にあるのです。

うちのピリカコタンに関しても、見たことあるような人たちが来てくれるような気もするんですが、例えば、何度でも来てくださるっていう人に関して、ポイント制ではないけど、なにか溜まったら僕ら札幌のアイヌから記念品を差し上げるとか。何かそうやってリピーターが楽しめるような工夫っていうのをね、すいません、細かい話で申し訳ないんですけども。やっぱりどこも悩んでるように、うちも今は入場者数が増えたといってもですね、いつ、大変な時期もあるかもしれませんので、そんな工夫を話し合っていきましょう。求めるだけじゃなくて、うちの協会ともそういう話をしていけたら良いなと思っています。

○尾崎委員長

ありがとうございます。他にございますでしょうか？

○白川部委員

第二次札幌市アイヌ施策実施プランについて質問させていただきます。1回当たりの開催費等が上昇しているという物価高、インフレを主な原因として事業の実施回数と

か、それに伴う年間参加者数を少し減らしたり、一部ちょっと上がってるのかもしれないですけども、全体としては減ってしまうというご説明をいただきました。

単純に多くの方が参加すればいいというわけでもないような時代になっているのかも知れないのですが、やはり実地での開催を減らす分、例えばインターネット上、つまりSNSだったりとか、そういったところで、代替策として普及啓発を進めていくといったことは、考えられているか、もしくは、この細かい事業の中にそのようなものが入っているのでしょうか。

また、札幌市単独ではなくて、場合によっては周辺の市町村と計画をつくるといったことは、これまで検討されたりとかしたことはあるのでしょうか？

今回の第二次の、しかも途中の変更認定の話になってるんですが、後半は単純な個人的な疑問としてお伺いしたところです。

○事務局（アイヌ施策課長）

私の方からお答えさせていただきます。

まず一点目、実施プランの減少は、本当に札幌市の財政が厳しいという状況がございます。10%、15%という形で一律の事業費削減というのが、まず行われたというのは事実としてございます。ただ、ここで重要なのは集中と選択といいますか、まずその事業を減らすとしても、ただ減らすというようなことにならないように工夫した結果がこれとなります。

予算規模が減っているその分を、代替の普及啓発などで補えないのかという点でございまして、アイヌの歴史・文化、アイヌ施策に係る情報発信は重要だと思っております。SNS、Instagramとかそういったところも活用しながら所管の施設の連携や事業も発信しつつ、アイヌ文化や歴史、アイヌ施策というものを、広く知ってもらおうべく活用してまいりたいと考えているところでございます。

もう一つの周辺の市町村との協働に関しては、その都度必要に応じて、意見交換するという状況がございます。けれども、委員の方から御指摘のあったような、協働して今何かを取り組んで一つの施策を展開していくというような状況にはございません。

以上でございます。

○尾崎委員長

ありがとうございます。他にどなたかありますか。

○白川部委員

回答をいただいて、ありがとうございます。順番が前後するんですが、2点目の質問については承知いたしました。

1点目のご回答に対して、情報の発信は既にされているということで、私も個人的に確認したりとか見たりはしているんですが、発信から、最近流行っている、いわゆる生成AIといいますか、自分たちで何か新しく作ってそれを周知するっていうことが、今はその技術をデジタル技術を活用したら、できるような時代になっていると思うんです。なので、そういったことに対して例えば、来年度の国の交付金の申請のときに、札幌市が新しく考えた事業として、生成AIとかを活用して、新しく発信したいといったような新しい事業に対して交付金を充てられないかということをご検討していただきたいなというふうに考えております。

実際、民間の取組だとは思いますが、生成AIを使ってアイヌの方々の伝統文化だったり発信している個人の方だったりとかもいらっしゃいます。ただ、やはり個人でやられてるというところで、活動の限界だったりとか、文化に対する解釈の限界とかもあると思うのですが、190万人が住んでいる札幌市が公式で、デジタル技術を活用したアイヌ文化の発信とかを本気で取り組めば、北海道を中心にですね、あまり普段馴染みがない方、市民理解も進むと思いますので、どうかご検討していただければというふうに思います。

#### ○尾崎委員

ありがとうございます。今のは、ご要望をお伝えしたということによろしいでしょうか。他にご意見や、ご発言がありましたらお願いします。

#### ○吉村委員

資料1の方で要望です。産業等の振興のところの、アイヌ文化のブランド化推進の方で、一つ私が去年1年で見えてきたことと、聞いたこと踏まえて、ちょっと行っていただきたいことがあります。

何を見てきたかと言いますと、アイヌの刺しゅうだったり木彫りだったり、体験コーナーとかで、5分、10分とかで、ちらっと学んだ一般市民の方が、自分たちが、もうすごいアイヌ文化とかをもう学んできたんだよみたいな感じで、札幌市の施設を借りたりして、普通に講座を開くっていうことが何件かあったんですよ。

たまたま、私の知り合いがそんなものやってるんだと思ってそこに伺って、1回当たり講座は1人100円くらいを支払って、そこが婦人団体か何かだったみたいなんですよね。その婦人団体に加入していただければ、常に100円で、アイヌ文化を学べますみたいな感じで謳ってたらしいんですよ。

知り合いは、もう何年間かずっとアイヌの刺しゅうをやってきた方なんですけど、その講師の方に「刺しゅうをやり始めてどれくらい経つんですか。」って聞いたら、2ヶ月だとか言ってたらしいんですよ。その方が、アイヌならまだ幼少期とかで親から教えてもらったりとかしてたのかなと思うんですけど、完全なるアイヌじゃない、「和人」っていう言い方をさせていただきますけど、和人の方だった。

あと、地域がちよっと違うんですけど、釧路の方で同じく木彫りの市民講座みたいな感じで教えていて、そこに来られた市民の方が、その講習で木彫りをやって、そしてらその方が言ったのが、「これで俺もアイヌ工芸家って、だから俺これ作って売っていいよね」って言ってきたっていうことです。

もちろん、その講師の方が止めてくれたみたいなんですけど、そういう方たちがどんどん増えていくと、今度は逆にそれが結果的にヘイトスピーチにも繋がっていく話になっていくと思うんですよ。皆さんそれって不審に思っていないませんか、だんだん。なんの技術もない、伝承もない、そういう人たちが作ったものがこれがアイヌものであると販売されている。それが、例えばわからないでポロセとかに並んでた場合どうでしょう。皆さん判別つきませんよね、きっと。僕ら工芸家、携わってる人たちはわかると思うんですよ。それぞれ、自分の模様があったりとか、おうちの文様があったりとかすると思うんですけど。でも、それ個人の話になると思うんですよ、わかるっていうのが。

なので、これからちよっとお願いしたいと思うのが、ポロセって、札幌市の工芸作家さんのために作ってるイメージで大丈夫ですかね。そこに卸すのは、札幌市の方っていう感じで大丈夫ですか。

(事務局、うなづく)

では、それでしたらもしできるのならば、札幌市としてその工芸家さんたちにつける認定シールみたいなものをつくらないと、この先、多分そういう方たちが、本当にちよっとかじっただけで、まるでもう何年もやってますよ、みたいな方だったり、あと、ポロセに並べたいからって言って、札幌市じゃない人が、自分の知り合いに渡して販売してもらおうとか、そういうようなことが、だんだん横行してくるかと思うんですよ。だから、それを少しでも未然に防いでいかないと、多分このブランド化や、アイヌ文化の伝承とか、そういうことにこの先どんどん影響していくかと思うので。それをもしできるのならば、来年度以降にはなると思うんですけど、予算化しなきゃならないと思うんですよ。

そういう工芸家を守る。育成ももちろんそうなんですけど、育成の前に今いる工芸家が離れていかないようにしないと、多分この先、育成は成り立たないと思うんですよ。なので、そういうような施策をできるように、この先考えていただけたらなと思います。

○事務局（アイヌ施策課長）

まず、ポロセに関しては、いわゆる一般人がいきなり参入して、例えば体験コーナーで40分学んでというのは極端な例だと思いますけれども、そうした方々の作品が、何にも検討されず、いきなり店舗に並ぶということはございません。

なぜならば、資料の方にはブランド化というふうに書いていますけれども、まずポロセにおいて出品をする方っていうのはどなたなのかということに関しても、札幌市の方できっちりした基準を持っております。

行政だけで、それを判断するわけではなくて、外部の有識者、もちろんアイヌ文化に詳しい方々にお願いをしつつ、その委員会の中で、この作家さんの経歴・作品を踏まえて、まさに仰っていただいたような、札幌市のアイヌ文化を発信する場としてのポロセに出品するにふさわしい方なのかどうなのかという選考を通して、初めてそこに並ぶということになります。

一方、仰っていただいた、アイヌ文化として発信するレベルに達していないものがまさにアイヌ文化なんだみたいな形で広がるというのは、我々も全く良いとは思いません。今日お話を聞いたことを踏まえて、何ができるかというのを行政としても考えていきたいと思っております。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。法学部で最近ちょっとそういう研究会があったものですから、申し上げますと、その伝統的なデザインとか、技法とか文様とか、そういったものをそれを伝統的に支えてきた人たちではない人が窃用して、多くはしばしば商品化するっていうのは、世界的に今問題になっているようです。この間、研究会で来られたのは、筑波大学の中空萌先生という文化人類学者ですけど、インドの伝統的な技法・知識や自然資源の窃用、欧米の企業による窃用の問題を研究されています。そういう問題が、今アイヌの伝統技法やデザインについても起きつつあるという衝撃的なご指摘だ、私はそう伺いました。札幌市ではそれについては検討がまだされておらず、初めてこの課題に気づいたっていう感じですかね。

#### ○事務局（アイヌ施策課長）

著作権とか、いわゆる法的な問題に関しての我々の認識として、講座には市民向けと、いわゆる出品者などアイヌの方々向けの講座の両方を、両輪でやっているのですが、アイヌの方々向け、いわゆる工芸作家さんたち向けに、著作権に関する研修というのを実施しております。けれども、この一般に広く出回っているようなその商品に対して、何かしら規制をかけるというとか、そういった検討というのは今のところ行っていないというのが正直なところです。

#### ○結城委員

これ世界中の先住民、ニュージーランドのマオリもブランド認証やっては失敗したり、空港において勝手に使われたり、またそれと戦ったり、カナダもそうなんですよね。

北海道の先住民たちも、昔は差別を受けてきたのに、自分たちが話題になるとそれを利用するみたいな討議もあったり、海外の人とも話したこともあります。カナダだった

かな、例えば作家のサインと顔写真をなるべく商品につけて、この人が作ったっていうことをやってたり。一昨年ニュージーランドのマオリのところに行っても、やっぱり作品のところには、その人の写真とかサインとかっていうものがあるって、今一生懸命、他の国の先住民たちも、そういう勝手に使われるっていうことに対して、すごく戦っていると思います。このことは、アイヌの全体の中の話になることがあって、そのブランド化っていう意味で、なかなか話がうまく進んでないところもありますし。

#### ○早坂委員

吉村委員に先に言われてしまったんですが、私もその辺をちょっと言いたかったことがあったので。フリー素材でアイヌ模様が出ていたりとかして、当たり前前にそれを使う。先生たちがフリー素材の文様を使ったプログラムを作ってくるとか。結構それってあるので、そういうところも先生たちとか、教育相談員などもいるので、そういう方たちにもちょっと訴えかけていかなきゃいけないのかなっていうことはありました。

結構すごい昔からなんちゃって講師なのかなっていう、「札幌に住んでいるなんだか先生っていう方に刺しゅう習いました。」とかっていうのは、相当前からいらっしゃるんですね。なので、もうせっかくね、地下にポロセができて、そこにももちろん商品を出しているからこそ講師もできるっていうことで、あそこで認証された人以外のものっていうのは、アイヌだって認識されないんだよっていう方向性を設けることっていうのはできると思う。ですので、ぜひポロセで出品できていない人たちは、アイヌの工芸家じゃないですよ、講師にもなれないですよっていうのもいいのかなと思いました。

ポロセに関してですが、本当にいろんな方たちが言っててなんですけど、「札幌の工芸家じゃないんじゃない、この人の作品。」なんていうのも並んでるっていうのは、噂では聞いたりとかしていたので。もちろん、前役員体制のときに札幌市と一生懸命戦って戦って、やっと常設展示ができる形がとれたっていうこともあるので。やはり、札幌に住むアイヌの血を引いて、会員にもなって、真剣にそこで育てている人たちこそあそこのポロセに出せるんだっていうのをしっかり作っていけば、今後、札幌で何かおかしなことって起きていかないのかなっていうのもあるので。ぜひ、その辺が欲しい。で、ポロセでシールとかあって、ここでもう認証されてるものですよっていう形になれば、この人たちは札幌で活動していてアイヌの伝承活動を行っている人たちなんだなっていうことが、市民の中にも認識されていく、そういう方向性を作っていただければなと思います。

それと先ほど、ウポポイの話をして、職員の人たちのことを、もう少し言いたかったことがあるんです。休みでなければ、みんなでそこに行って何かを体験して、職員の人たちが輪になってやっていかないと見えてこない部分とかもあるので、たくさんの施設があるのにそこを見に行かないとかっていうのも、アイヌ文化を知っているっていうわけではないと思うんですね。いろんなところに行くと、とてもたくさんいいものがあるのに、それを見に行かないで職員として、同じ共有をすることがなかったりとかするっ

ていうのも、私はあまりいいものではないのかなと思ったりはするんですね。

いろんな団体に所属して、その人たちとどういうふうな輪になっていくかという、職員だったとしてもそうだと思うんですね。そこでみんなで同じことを共有するっていうこと、そこで仕事で共有するんじゃなくて、みんなでそこに行っているいろんなことを体験したからこそ、心の通じ合える職場にもなるのかなというふうに思ったりもするの。これは、いろんなところに繋がっていくことでもあるのかなと思うんですね。

なので、ぜひ休んで何かをするって言ってるわけじゃなくて、みんなでその職員の人たちでしっかりと輪になれるような形を整えて欲しいなっていう意見だったんですね。

それとなんですけど、ビッグイベントっていうことを行っているんですね。いろんな団体が年に3回ぐらい行ったりとかしているんですが、ここ最近やっててなんか、本当にいつもとそんなに変わらないことをずっとしているっていうのがすごく不満でしょうがなかったりとかするんですね。

というのは、やはりうちの息子もウポポイで職員として働いて、娘も財団で働いたりとかして、あの人たちの使っている財力っていうのはとてつもない金額だと思うのであれなんですけど。たくさんさんのいろんな地域の人たちも呼んで、その人たちに話を聞いたりとか、いろんな地域の人たちの踊りを踊ったりとかするっていう形のイベントで行ったりとかするんですね。

月に2、3回のちょこちょここのイベントよりは、月に1回でいいから、ドンと もっと華やかなイベントに変えていくっていうか、人を呼べるようにしていくっていうのも必要なのかなと思うんですね。何年か前だったんですが、ウポポイではたくさんさんの地域の人たちが、どこどこの保存会、どこどこの保存会っていう人たちが集まったときに、それこそスタンプカードがありました。で、それを見たら、スタンプカードを押しにくれて、それが溜まったら、何がもらえるんだろう、ちょっと捨てちゃったんでわかんないですけど。そういうようなことをしていたので、もちろんサッポロピリカコタンのイベントなんかでも活用して行って、たくさんの人たちが本当に来ていただけるように。まあ、多分昔よりは、もちろんね、あの広がりはあるんだとは思いますが、元々市民にあまり周知されていないということは、結構指摘されていた部分でもあると思うので、もっともっとやって行ってほしいなあってね。

で、もちろんいろんなところで発信するためにはいろんなものを使っていく。メディアももちろんそうだと思うんですが、今本子どもたちなんか、TikTokとかって孫たちはすごい見ていますけど。そういうね、せっかく若い札幌に住むアイヌの人たちがそういうもので発信できるとか、そういうのももちろんすごく必要なのかな。

でも、私が一番足りないなって思ってるのは、今「映える」って、やっぱり人が来て写真撮ってね、「ここめっちゃ映えるじゃん！」っていうそういう場所っていうのは絶対に作って欲しい。3、4年ぐらい前だったとは思うんですけど、札幌市の方にね、中庭を改装するなんていったときだったんですが、映えるようにして、みんなそこだけでもいいから見に来てくれれば、アイヌ文化とかをちょっと感じてくれるような形でできるんじゃないか、そういう映えるようにしてほしいみたいなことを言ったことがあるんですけど。

ぜひね、今後もいろんなことが行われていくとき、どうやったら人が呼べるのか。ちまちまと少ない予算の中、何回も何回もイベントをするというよりは、やはりもっともっと人が来るようにもっと呼べるようなもので、もちろん、札幌市からの予算とかで補助金をいただいてやっていることでもあるので、ぜひもっともっと良いイベントになるように、力をいただければと思います。大体要望ですね。要望でお願いいたします。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。吉村委員からの指摘された知的資産のブランド化と、それに関連する適切な広報という体制についても、そういうことを検討してほしいというご要望があったというふうなところで整理させていただけたらと思います。

その上で、今早坂委員が指摘された、イベントの企画の仕方であるとか発信の仕方についてより積極的な工夫の余地があるというのも、ご要望として出されたというふうな、勝手ながら整理させていただきます。

もし、市の方から何かこれに関してあれば。

#### ○事務局（アイヌ施策課長）

いろいろ意見をいただきました、職員のあり方とかを含めていろいろご意見いただきありがとうございます。

月間イベントに関しまして、早坂委員のご意見についてです。今は、仮に予算が120万円だったとして、120万円で月に1回10万円のイベントをやることで、リピーターの件も含めて、毎月ピリカコタンに来ていただきたいという思想でやっていて、その120万円を1回で大規模フェスみたいな形でやろうというところは、今検討してなかったんですけども、そういったご意見をいただきましたので、限りある予算の中ではありますけれども何ができるかというのをいろいろご相談をさせていただきながら、進めたいと思います。

#### ○尾崎委員長

ありがとうございます。これまでまだ出てないような論点等について、もし何か委員の方からあればどうぞ。

## ○井馬委員

素朴な疑問なんですけど、この施策の対象っていうかターゲットの中に外国人って入ってないのかなっていう、ちょっと思ったんですけど。というのは、皆さんご存知の通り、観光客がたくさん外国からいらしてて、雪まつりもすごいニーズだったと思いますし、やっぱりアイヌ文化とか今関心が高いんじゃないかなと思うんです。

私はコカ・コーラにいるので、コカ・コーラの東京にいる人たちは、外国人がほとんどなので、我々の会社から何かのときに贈り物をするときには、アイヌの刺しゅうとかをお送りしたりすると、とても喜ぶんですよ。札幌市さんも、金融資産運用特区や外国人の誘致っていうのはとても力を入れてらっしゃる、政策の中に入ってるというところで、そういう意味でも産業振興という意味でも、チャンスなんじゃないかなと思ってはいるんですが、この資料の中にはあんまり外国人観光客っていうのは出てこないなと思って聞いてました。

多言語化だったり、翻訳だったりっていうのはもちろんされてると思うんですけど、なんかそれだけじゃないんじゃないのかなと思ってまして。そういうチャンスを生かすというか、やっぱりいろんなことをするにも、規模とか持続性の問題で、経済的基盤ってとっても大事だと思う。

なので、そういう意味でも外国人観光客に向けて何かされてることや、しようと思ってることっていうのは、伺いたいと思いますし、もう少し、もう一歩、多言語翻訳だけじゃない何かっていうのもあってもいいんじゃないかなっていうのは思いました。

## ○事務局（アイヌ施策課長）

ご意見ありがとうございます。札幌市のアイヌ施策において外国人をターゲットにしてるかどうかというところがございますけれども、札幌市役所でございますので、先ほどの歴史・文化を周知していくという意味でも、一義的には、札幌市民がまず対象になるという認識はあります。

一方で、その情報の発信を含めても、いろいろな方々に広く知っていただくというのはもちろん我々の方でも重要だと考えております。そういう意味で、広報の方法についても、ご意見を参考にさせていただきたいです。

言語の問題、多言語化の問題というのは、もちろんピリカコタン等でも翻訳の対応等を行っているほか、外国人の方のみを対象にしたというわけではないんですけども、仰っていただいた札幌雪まつり、非常に商機となっていると我々も考えております。

具体的にはポロセですね、臨時の出張販売店を雪まつりの期間に設けてまして、そこでポロセを知っていただく、工芸品を知っていただくということと併せて、歴史・文化に関するパネル等も置いてですね、同時に知っていただくという情報発信もしております。そういう拠点として、雪まつりの期間、我々アイヌ施策課としても施策に活用して

いったというところもございます。

ありがたいことに、興味を持っていただいて、外国人の方にも大勢買っていただきました。札幌は観光都市でもございますので、そういったいろいろな機を捉えて、我々もアイヌ施策を広く進めてまいりたいと考えております。

○尾崎委員長

よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。他にございますか。  
よろしいでしょうか？

(「はい」と発言する者あり)

非常にいろいろな論点が出て、市の方でも大変だと思いますけれども、よろしく願います。それでは、本日予定している議題は以上となりますけれども、その他、皆様の中から情報提供などございましたらよろしく願います。よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

### 3 その他

○事務局（アイヌ施策課長）

本日の貴重なご意見、誠にありがとうございます。次回の委員会でございますけれども、来年度6月以降の開催を予定しているところでございます。

時期が近づきましたら改めて日程調整等させていただきたいと思っておりますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。事務局からは以上でございます。

○尾崎委員長

本日はどうもありがとうございます。以上をもちまして令和7年度第2回札幌市アイヌ施策推進委員会を終了いたします。お疲れ様でした。